

第104回全国高校野球選手権青森大会

〈個人成績〉 工大一

順位	選手 (○は学年)	打数	安打	打点	長打	犠打	犠飛	盗塁	三振
1	廣野 風雅③	47	0	0	0	0	0	0	12
2	葛西 謙③	13	7	5	3	0	0	0	2
3	長谷地 有暉③	7	2	2	2	0	0	0	2
4	長谷地 寛大③	10	6	6	6	0	0	0	2
5	砂 雅人③	9	2	2	2	0	0	0	0
6	田中 志輝③	11	4	2	2	0	0	0	0
8	須藤 寛輝③	12	5	4	4	0	0	0	2
9	志田 健哉③	2	0	0	0	0	0	0	0
10	村木 芭蕉③	2	1	0	0	0	0	0	0
11	山口 秀登③	0	0	0	0	0	0	0	0
13	山田 匠③	5	1	2	2	0	0	0	2
14	藤島 匠汰②	-	-	-	-	-	-	-	-
15	吉田 悠③	1	1	1	0	0	0	0	0
16	米倉 恒希③	1	1	1	0	0	0	0	0
17	原 周平③	-	-	-	-	-	-	-	-
18	原 金剛③	2	0	0	0	0	0	0	0
19	金剛 清来③	-	-	-	-	-	-	-	-
20	吹越 清来③	-	-	-	-	-	-	-	-

八学光星

順位	選手 (○は学年)	打数	安打	打点	長打	犠打	犠飛	盗塁	三振
1	洗平 歩人③	10	3	3	3	0	0	0	1
2	元 亮③	10	3	3	3	0	0	0	1
3	高梨 克久③	11	1	0	0	0	0	0	0
4	高梨 恒典③	11	0	0	0	0	0	0	0
5	高梨 泰三③	13	2	2	2	0	0	0	1
6	中井 恒典③	14	4	2	2	0	0	0	0
7	中井 隼③	12	6	5	6	0	0	0	3
8	佐藤 航大③	14	1	0	0	0	0	0	2
9	野呂 洋輝③	8	4	4	3	0	0	0	0
10	宇田 和裕③	0	0	0	0	0	0	0	0
11	渡部 真③	2	0	0	0	0	0	0	0
12	石井 真③	0	0	0	0	0	0	0	0
13	吉田 智史③	11	4	3	3	0	0	0	1
14	比呂 比呂③	0	0	0	0	0	0	0	0
15	比呂 陽太③	1	0	0	0	0	0	0	0
16	地 虎②	2	0	2	2	0	0	0	1
17	青木 友歩③	8	2	2	2	0	0	0	1
18	深野 賢③	2	0	0	0	0	0	0	0
19	藤原 天斗②	0	0	0	0	0	0	0	0
20	藤原 天斗②	0	0	0	0	0	0	0	0

〈投手成績〉

学校	投手	試合	投球数	打者	被安打	被三振	与四死球	失点	自責点
工大一	廣野 風雅	2	16	66	9	18	6	5	5
	村木 芭蕉	1	2	11	5	2	0	3	3
	山口 秀登	1	1	4	4	0	2	1	1
	金剛 清来	2	2	17	5	6	0	1	0
八学光星	洗平 歩人	3	3	27	5	9	3	1	1
	宇田 和裕	1	4	19	3	4	2	1	1
	渡部 真	2	4	35	4	11	6	2	2
	吉田 智史	1	3	14	6	4	2	2	2
藤原 天斗	3	7	29	4	4	3	1	1	

〈2校のチーム成績〉

工大一		八学光星	
▶2回戦	4	▶2回戦	4
工大一11-1八高専(6回コールド)	22	八学光星8-1青森西(7回コールド)	20
▶3回戦	8	▶3回戦	8
工大一8-7八学野西(延長10回)	85	八学光星2-1弘前東	106
▶準々決勝	28	▶準々決勝	264
工大一不戦勝 工大二	30	八学光星7-4東 義	353
▶準決勝	20	▶準決勝	15
工大一不戦勝 工大二	13	八学光星3-2弘学聖愛	17
▶準決勝	17	四死球	19
工大一3-1青森山田	12	三振	20
	4	失策	1
	2	併殺	0
	26	残塁	27

挑戦者のつもりで戦う
 工大一・長谷川菊雄監督 挑戦者のつもりで戦う。単打に足を絡め、相手より1点でも多く取りたい。守備が鍵だ。ロースコアの接戦に持ち込めれば。背伸びをせず、工大一らしく泥くさい野球を展開していきたい。

守備からリズムつくる
 工大一・砂雅人主将 決勝に向けて良い準備ができている。相手は良い投手がそろっていて、打撃も良い。今大会は守備が良かった試合は自分たちのペースで戦えているので、守備から試合のリズムをつくりたい。

最後1点上回ればいい
 八学光星・仲井宗基監督 どんな展開になるか予想できない。勝ち方、試合内容に関係なく、最後に相手より1点でも上回ってほしい。打撃ではストライクを徹底させる。

6投手全力で投げ抜く
 八学光星・洗平歩人主将 相手はバントや盗塁を仕掛けてくる。相手ペースに持ち込まれないよう無失策の守備でしのぎ、失点は5点以内に抑える。ロースコアの展開になっても、6投手が継投で全力で投げ抜く。



機動力の工大一か 勝負強さの光星か

決勝見どころ
 両チームとも今大会はほぼ全ての試合で継投策を取っているが、先発投手の出場が展開を左右しそうだ。
 工大一は3試合で犠打飛13と、高い機動力に小技を絡めた攻撃が身土で、準決勝は徹底したバント攻勢で第1シードを撃破した。主戦野呂風雅は準決勝で制球が、切れのある変化球を武器に被安打4、1失点完投。中軸の葛西陽らがいかに好機を生かせるかが勝負のポイント。
 八学光星は今大会4試合で打率2割6分4厘。例年に比れば破壊力は見劣りするが、接戦をもに勝負強さが光る。中軸の織笠陽多、野呂洋輝は打率5割と調子が上回っている。野手陣の守備は失策1と堅く、主戦洗平歩人主将を中心とした6投手をより立て



相手投手を想定した打撃練習に励む八学光星。ナインは21日、八戸学院実業内練習場

2022 夏
 第104回全国高校野球選手権青森大会は、最終日の22日、弘前市はるか夢球場で決勝が行われる。甲子園への切符を懸けて激突するのは、12年ぶりの聖

地を目指す工大一と、3年ぶりの夏制覇を狙う八学光星。八戸勢が決勝でぶつかるのは、両校が対戦した2010年以來12年ぶり。集大成の戦いを目前に控えた両チームは21日、それぞれの練習拠点で調整し、決勝に備えた。

2時間半、弘前工野球場で練習。強打の相手を想定し、中継プレーを交えた守備練習や、打撃練習などに汗を流した。準決勝で1失点完投し、チームを勝利に導いた主戦野呂風雅は「相手は全員がすごい打者。外角への球が鍵になる。一球、球集中して全力で投げ

る」と意気込んだ。八学光星は、同校野球場などで午前8時から正午ごろまで練習。ウォーミングアップ後はシートノックや相手右投手を想定した打撃練習などを行った。主砲の野呂洋輝は相手主戦について、「変化球の切れ、制球が良くなっている。春とは違う」と警戒。「打てないと勝てない。選球を意識し、狙い球を絞って対応していく」と闘志を燃やした。現チームは昨秋の地区大

甲子園懸け、きょう決勝

会、今春の地区大会、同県大会で計3度対戦し、八学光星がいずれも勝利。10年夏は工大一が3-0で優勝した。決勝は午後1時開始。今大会は入場券数に上限を設けていない。(福田駿 上村公徳)

きょうの試合
 ▼決勝
 工大一・八学光星13・00